



何
何
漸
政
草
心
編
乾

9

7 3
3657
1



以夜間屋唱方少一後竹河觸面之趣也亦都也
 拂乳 中間各仲間組合是正同者賣之者出車の賣
 左 右 仲間 大小 和銅 車り 買加 重銀 之分 是
 故 右 勿 論 之 筋 之 行 主 候 別 便 及 沙 汰 之 筋
 竹 癖 此 筋 之 邊 者 可 也 之 中 難 才 有 材 又 以 度
 長 潤 上 大 通



諸川船

綿市場

清川創魚之賣人

重銀定有黃金所

志務備酒所職

伊豫砥石名臣

方收川後真如銀

傾城所水道真如銀

都白流地并川岸通至并

地不附公真如銀兼

皆人是既清負真如銀

有之分通之及沙法之主余兼而車行所之在納

夏的重銀之策不術不及上納之尤當買其節小

之海之村尚四月中十六日觸出之亦之志先只今之通

和心以以後之程之在斗沙波間鋪以

但之本又之通中彼之是之是之株仲間

組合之車行所其矣之役裁之自力同之

王介之年始八款希之禮古親之廉若

止之假之旬備之

右通之御所中之觸知也

宣五

石見 遠江

南組

惣年寄

中少觸書之趣之遠矣其書之旨文政是年也
水觸之後也同類之故所之中波主之者其如
地魁角之主錢名物人而之何之及混雜後同
之為之中少觸之者主亦不海出也中少觸之
之中波也而中少觸之尚不特之也其以度津城內
向所是進行所之奇地役人中間少者之也其如
中少觸之主也其如觸之趣之遠矣
其如守學之者其如斗之者其如自其世後也
閑之如少觸之子其如少觸之者其如度之及少觸之

一夫收視舞妓役者其情方亦之使元禄年中第
返之中波主之趣之也其如少觸之者其如
之具其有之也其如少觸之者其如少觸之者
以對不遠之也其如少觸之者其如少觸之者
人同類之也其如少觸之者其如少觸之者
鋪者其如少觸之者其如少觸之者其如少觸之者
上者其如少觸之者其如少觸之者其如少觸之者
所分不也其如少觸之者其如少觸之者其如少觸之者
杯主也其如少觸之者其如少觸之者其如少觸之者
及起也其如少觸之者其如少觸之者其如少觸之者

右設者其河原者之中其意之志也業之所人
其亦之其混也右辨情弱之風俗之押移り
以候之有以候右設者志白論其居掛之淨猶
理也其之味縁之命鳴物波世も名人形也
以之類於所生之田畑家屋鋪亦不待致候是止
其之在介之志也吉凶平日其羽織志格別上下
袴袴波為利以候元其波之間之旨也及湯
身之之顧跡も其情也
右通之辨所中其觸知也

意五件

右見

右組

惣集書

通年借重銀出入目別清書之に所辨限也
波之に所分不其意也右類之に辨人更波候也
之亦名其再具之波之に其也其之其之其也其
借重銀濟方之通巧也其名其亦其板候也
此辨限也波之者也其也其也其也其也其也
其年百姓所人其候代也其也其也其也其也其
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其
不其也其也其也其也其也其也其也其也其也其

限在渡之役人情ハナハナ五之間幾位方ハナハナ右振之
而及之多友人先之と俾格別ハナハナ幸者以了ハナハナ之
土著之先所新限水渡者追之ハナハナ以ハナハナ之
波再興之志向後男女共平日葉葉不腹
介之志余之腹自志勿論雨天之雨傘下形水如
用之候乃止坐裏坐烟油合形ホハナハナ之波性其
且親之親類所寄之者方吉凶之場不ハナハナ列座
波乃由之志上男志吉凶ハナハナ下下禱并羽織
志乃由之志女之間志旨と及親之身也ハナハナ能得
之身身新限水渡之候之情之志由之志中
間

友の自然共上志太渡方ホハナハナ成之付巧ハナハナと云
波多者乃之志趣於志之志速ハナハナ互補之志衆ハナハナ科
衆亦下之志者乃之志葉之志と付右新之旗志
極之志改之

右之通之郷所中之觸動也

志五片

石見

石見

石見

都之浮説中觸乃志太宿之張紙波之旗志
志乃付之志手挿並之海志の志葉而中波志

以上之遺棄之質素と守之實業並立すべし
西海に衣斗して之を獲て毎々亦其の島と
市論云

一質素と後志之氣を中論に通地見即風と不賦
平日手廻りといふものも夫れ所分肉體といふ
市論併不義非道といふ不論^{かちい}之を非^た列
一諸者有實業之成是又其の中論に通地
概引^り之を^りといふものも^り中論^り之知者同者
刺と並^り居^り之^り中合志勿論^り其^り他^りの
競^り之^り夜^り間^り夜^り論^り之^り御^り之^り西^り海^り之^り夜^り衣^り斗^りの

右の事と云ふことと云ふことと一時に利法と薄くとも
始終^り店^り方^り敏^り不^り得^りといふ^り自^り之^り主^り向^り利^り法^り余^り度
名^り不^り得^りといふ^り斗^りと^り夜^り間^りの^り事^り
一所^り之^り年^り寄^り所^り人^りを^り後^り質^り素^りと^り美^り法^り色^り法^り者^り賣^り
節^り末^り之^り後^り者^り名^り末^り之^り介^り並^り之^り振^り合^り之^り名^り物^り夫^り之^り所^り
得^り者^り重^り之^り統^り以^り及^り清^り觸^り面^り之^り御^り越^り之^り
其^り中^り法^り事^り一^り寄^り物^り之^り斗^りとい^り之^り者^り式^り衣^り以^り遠^り
等^り余^り之^り在^り心^りの^り者^り不^り得^りとい^り之^り者^り一^り際^り云^り遠^り之^り
對^り書^り之^り不^り得^り行^り所^りの^り中^り其^り之^り方^り角^り之^り也^り

才火... 和火

市中商人其設場中間主外諸家中間其
銀之押賣被其多其也迫以天刑而橫行
其或刻所取之其の押控柄其亦不法之極
其亦公衆也其由之其少不博之其亦公向後右
其亦公衆也其由之其少不博之其亦公向後右
其亦公衆也其由之其少不博之其亦公向後右

其五

市中商人其設場中間主外諸家中間其
銀之押賣被其多其也迫以天刑而橫行
其或刻所取之其の押控柄其亦不法之極
其亦公衆也其由之其少不博之其亦公向後右
其亦公衆也其由之其少不博之其亦公向後右

市中商人其設場中間主外諸家中間其
銀之押賣被其多其也迫以天刑而橫行
其或刻所取之其の押控柄其亦不法之極
其亦公衆也其由之其少不博之其亦公向後右
其亦公衆也其由之其少不博之其亦公向後右

其五

其五

其五

市中商人其設場中間主外諸家中間其
銀之押賣被其多其也迫以天刑而橫行
其或刻所取之其の押控柄其亦不法之極
其亦公衆也其由之其少不博之其亦公向後右
其亦公衆也其由之其少不博之其亦公向後右

市中商人其設場中間主外諸家中間其
銀之押賣被其多其也迫以天刑而橫行
其或刻所取之其の押控柄其亦不法之極
其亦公衆也其由之其少不博之其亦公向後右
其亦公衆也其由之其少不博之其亦公向後右

以本道と在福の長竹代本長鬲買筋木之候先
 唯今と通三本以次旨中液金糸本於又五個
 上右之分長孫等符今般十人共本長止
 并同程素人由本買具猪子以中付
 一本屋之候も右回程中液の金糸不足又長孫
 之中付今般本屋行自長止素人由本買具
 猪子以中付以長孫本屋之候も根長糸
 長孫猪子以中付新規と右長賣本初
 の長付番の奉行所に長本長所長初長
 と廉下酒且新化の書物不長板行の節也

本同程奉行所の中長孫長改清下
 長孫長買具長止又絶板
 中付番の書類改の長報中間鋪
 右通之細所中福初也

定五月 遠江 石見 南庄 長年寄

由本道醫師の仕方尺候一辨の要長長疾病薬
 長孫の度毎酒料式の長代の唱長銀長清
 以由の長少の病新の中り長長時別長風雨也

本道

平廣振之觸知也

定五件

石見

遠江

上

南但

惣年寄

一 祭礼之耐之飾法事 惟仕等之拜小袖
并常小裳又之袖手之袖等 小旗 遠廻人形
之物家来取以之等之 緋麻布木綿之介子
司衣類 乃之衣之 金銀之首押間及
出之町人衣類 麻布木綿之介子
信長

一 祭礼之神官祭礼之儀 神樂樂々之の立歌
等々 名附大勢之令降初仕由也 木沙之儀
法身并兼之神樂與人教并相志来也 定書
任之相類に仕定者之命 是人等も 死者神
魂下り等々のり等々のにおありとるも 度等付の相
介之祭礼も之なり 木沙降初之儀 儀之上
も 度等付の儀 沙法事
一 任者祭礼之儀 木沙儀用申介 持系之 枕灯 俵
等々に 教多附等 申之等 不用心等 俵等
本之 枕灯 是等 祭礼 儀 又 祭礼 儀 俵 枕灯

持領り別今官村角なる火成不消の所
所同出とせし物にそのありて主所との
出合す所消く之遠岸を昔所に之を連年
の長介に多礼を夜中挑灯た解を設けり
之し多てその物所事
一多礼名物に出る者秘く海主と火成村の
下村の之沙法に手ありて其を之を
回車想の町に強きとの所也と見果別
用ふに之は無記中

一多礼の所ある所の其の古主所之町人盡
出合ふ後之門とありて神事名所とあり
て之越度下村也
右之通之編所中之觸知也

三保三宮年 石見
五月廿九日 遠江

南組
寛永年

日蓮

毎年六月諸社神事之付御止との地東
右般ホ長生ノ歳有あく日蓮と云為觸知

至道おん神事... 昔事... 去時... 方教... 毛... 新... 右... 乞... 後... 夜...
至道おん神事... 昔事... 去時... 方教... 毛... 新... 右... 乞... 後... 夜...
至道おん神事... 昔事... 去時... 方教... 毛... 新... 右... 乞... 後... 夜...

至道おん神事... 乞... 後... 夜...
至道おん神事... 乞... 後... 夜...

日蓮

近年世上... 乞... 後... 夜...
近年世上... 乞... 後... 夜...
近年世上... 乞... 後... 夜...

亦物少品之價之微也... (Vertical handwritten text on the right side of the left page)

一... 新... 總... 衆... 他... 矣... 但... 復... 也... 破... 損... 變... (Vertical handwritten text on the left side of the left page)

亦... 備... 者... 所... 由... 也... 其... 所... 難... 後... 能... 解... 之... 以... 早... 竟... 身... 分... 不... 如... 有... 意... 花... 員... 之... 兩... 補... 性... 何... 能... 其... 實... 用... 事... 亦... 有... 其... 修... 復... 必... 論... 新... 規... 之... 必... 無... 他... 宜... 也... 諸... 之... 所... 分... 亦... 有... 其... 補... 理... 必... 假... 之... 必... 宜... 也... 間... 於... 茂... 而... 不... 及... 遠... 而... 必... 有... 其... 修... 復... 亦... 須... 手... 以... 其... 身... 之... 修... 復... 也... (Vertical handwritten text on the right side of the right page)

右... 通... 之... 鄉... 所... 而... 亦... 復... 損... 其... 所... 必... 有... 其... (Vertical handwritten text on the right side of the right page)

諸... 色... 高... 乘... 之... 其... 民... 國... 之... 新... 也... 且... 金... 之... 有... 今... (Vertical handwritten text on the left side of the right page)

度十組上重と始惣の相償と一箱筋上重類
英真の志は清用お勤の向にお附人足等と不
州清免の上石厚清世信も五と云ふ所清色也此
後日用と云ふを遊と引下と云ふ趣と云ふは
寄一向と云ふと云ふ名所分と云ふと云ふと云ふ
我目非目と云ふ減と云ふと云ふと云ふと云ふ
七と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
云と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
清に志と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
云と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

清城下之安住

清國君志と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
お毎々安住と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
利徳と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
お毎々買上と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
お毎々去元と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
お毎々求下と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

此等之嚴重之足又替市付間一國而移時
日來之來不之為原亦之收利合之故也
右之趣所中不廣指之觸知之也

五月

右之通法以之上下間為地之因能也
日來之來不之為原亦之收利合之故也
方身一之在之元方之收合成之上下之
實之波之別之裁目非自出之也之入之
板之如之何之收之也之為之度之及之
之系之也之遠之也之換之波之

右之趣之辨所中不廣指之觸知之也

五月

石見

遠江

南組

想身等

一所中價之古為之古思買之古鐵自古鐵買
古道具之小道具之件間組合之停止音
在觸之也之追之同之賣之者出之也之
隙中間之也之勿倫新觀之在波世之始之者每
是之波世之波之者
所收付之銀具類之切實之永買之

中間交易方一交授子孫其方月昔之所奉行
折出海出居清言

一貨物自古以來古物買大貨物之取以節其主
主其說又從之如鐵之貨物取買取不若
去人高平判以持系以主其主說文
名其一中說其貨物之取買其後志取同類
其去主主其主說文一問其取以主其主
其身分不若其取以主其主其取以主其主
先之遂時味取之奇其主其主其取以主其主
其行出其海出其貨物其取以主其主其取以主其主

於其取以主其主其取以主其主其取以主其主
其取以主其主其取以主其主其取以主其主

下道具自古道具古鐵自古鐵買之
都右取貨物其取以主其主其取以主其主
其取以主其主其取以主其主其取以主其主
其取以主其主其取以主其主其取以主其主
其取以主其主其取以主其主其取以主其主
其取以主其主其取以主其主其取以主其主

但貨物之取買其取以主其主其取以主其主
其取以主其主其取以主其主其取以主其主
其取以主其主其取以主其主其取以主其主
其取以主其主其取以主其主其取以主其主
其取以主其主其取以主其主其取以主其主
其取以主其主其取以主其主其取以主其主

且又新集との記述に「石主は支配限度
實を數に三系ありて、中連所は、
二條の石主を一方に、北南長留を
政の石主を一方に、波世に隣りて、
一價波世を波世との出入の氏家
由根と知り、尚分貨物に主を
石主は、おのづから、主の
石主は、おのづから、主の

右と通中波の間に、石主は、
終末との並に、石主は、

未既といふ方お少く、お少く、
石主は、お少く、お少く、

右と通中波の間に、石主は、

貨物並古鉄古道具、古鉄古道具、
石主は、お少く、お少く、
石主は、お少く、お少く、
石主は、お少く、お少く、
石主は、お少く、お少く、

海東之年家古思代子成三との本も是止前
之旨よりなる

一六故所之年家より成江生者其後より白を記之遠
舟の事實之云又其買之にも極根海東委
而為之其帳面之便古思年家より押切り付
間より之方角之想合所之帳面持系調平市
清公を終先相吟味之に其想年家より其調平付
以付之其節の沙汰は牙右帳面其出第の之余
東印之便を沖船面に通之遠年家より其守に
但檢洲其庫西之定之便其庫之各之

西之方角を在るに之余在るに便之其村隈庄在
其衣帯中付るが中文同根之其の公

右之趣之辨所申石渡極可船記也

石見

遠江

自便
其年家

花月其昔満承の蒙其後之在徳其水調之付亦
書之其状の事は古昔遠年家より其年家沖船作
其間沖船面に通抄割以上其下は之其町限
其年家其印の折に其徳其年家其形之其想合所也

臣等出公之所限者愛人者亦之上也高貴名目
亦紀門下之公亦極極書之以此也
一則其古子之道具也後世之分以度之即出
以付之亦有所限而後能形之通之也其旨
通是之也之公多人教之後之付之也其旨
迴轉之也之公向之也其旨之也

三傳年
六月

何所
何自

仙臺

何物色亦極極

表紙其紙自何自

三保十三寅年
六月

何所

何屋
何屋

古鉄小道具買入り求取帳

表紙其紙自何屋取

三保十三寅年
六月

何所

何屋
何屋

古子買入り求取帳

表紙其紙自何屋取

三原十二寅年六月

御觸書

涉地或刻下个主印

近來涉地之候元方手薄取如對捌以
多會其費不鉤合之場合合共商所為也
加措外並後引上之類抄抄之外之申之諸色
百回出之合之思氏國之類之基之付厚所世活
其之類之又以所之申之候之付格別濟觸出之類
其之類之先達之類之類之類之類之類之類之類
止多之人並賣買之類之類之類之類之類之類
涉地之類之類之類之類之類之類之類之類
其之類之類之類之類之類之類之類之類
其之類之類之類之類之類之類之類之類
其之類之類之類之類之類之類之類之類

貨財之利銀式或或銀都而理手問手傳日
產貨銀錢之市而類之使同根引下下市
勿論一般之右式割之引下之燕後之用之
以法之者之之之上一分之二御之乃相又之割之
以割之者之引下之各部當此後何種不貴燕後
何種之少之德銘之見世先之皆之之乃去
同種之漢幣之引下之各之之乃之乃人見之
實根之引下之沖之之之及貴之買之之右之燕後
書所役人之而集之方角之想年亦之之是出
自之之乃之燕後之拘之之之余之之之之之

右式割之引下之之燕後之引下之燕後之
做之之之之之之之之之之之之之之之
如之之乃之之打合之引下之及之之
但右之通之之之之之之之之之之之
恰好之不及之之之之之之之之之之之
及之之之之之之之之之之之之之之之

右通之銀所中之觸之也

名目

遠江

南組

想年亦

以度都白拂孔每間在伴間組合未若止在
雲間前之候返百及沙法以之也此能今志
之通之也心以候返之甲法以之也格別之
一候之伴間在解以之之角之也先有之也
限年寄行自亦在定其之分也亦在候之也
折採伴間在止其之上也年寄行自也同和
止其候之年中之候年寄之候候之候今候年
寄行自也候之候候之候候之候候之候候
志若張伴間組合等不亦解染之也為候之
之候之有自候之候之遠在候之廉在之候之
又

也、是正以年尖之也唱甲間鋪以
右、通之候所中之候知也

定、月 石、貝
遠、口

由、但
志、年、寄

之

度、紅、毛、花、物、方、而、銘、之、亦、也、云、危、踏、之、後、堂、買、
旨、尚、以、月、在、箱、舟、所、人、在、氣、配、在、同、進、之、業、
種、類、樹、方、在、如、之、越、之、以、其、毛、類、獨、有、類、耳、
魏、亦、今、以、堂、買、之、在、序、以、事、之、中、在、其、右、也、

之於其於能之未種荒物歎同種之依之間信委
與之無之分去是又言是消銷之及遠以乎其以
之後者之知所之以示之也

定六日

以度滿也垂後之由海都之細工之間其年
傳日唐銀之銀之此別以之行下之銀之
能之付之也銀之在備下之也之也之也之也
其續之方是也之也之也之也之也之也之也
其其格別之記之也之也之也之也之也之也
其在也之也之也之也之也之也之也之也之也

之於其於能之未種荒物歎同種之依之間信委
與之無之分去是又言是消銷之及遠以乎其以

之後者之知所之以示之也

定六日

以度滿也垂後之由海都之細工之間其年
傳日唐銀之銀之此別以之行下之銀之
能之付之也銀之在備下之也之也之也之也
其續之方是也之也之也之也之也之也之也
其其格別之記之也之也之也之也之也之也
其在也之也之也之也之也之也之也之也之也

右為... 同... 廣... 進... 元
志... 又... 官... 意... 故... 似... 可... 且... 其... 少
潤... 之... 後... 年... 亦... 形... 之... 書... 付... 極... 佳... 之... 亦... 兩... 丁
代... 物... 系... 上... 押... 印... 之... 一... 以... 爲... 返... 之... 尤... 其... 有... 限... 之
之... 係... 潤... 向... 行... 厘... 之... 極... 細... 州... 之... 亦... 物... 亦... 書... 者
賣... 人... 手... 元... 之... 第... 百... 之... 始... 意... 之... 極... 精... 之... 以... 中... 之...
五... 五

但... 且... 自... 實... 之... 肉... 酒... 世... 之... 年... 亦... 志... 身... 行... 日
五... 潤... 之... 水... 者... 矣

右... 之... 紙... 之... 亦... 以... 之... 亦... 實... 人... 之... 以... 以... 方... 行... 所... 理
之... 紙... 之... 亦... 以... 之... 亦... 實... 人... 之... 以... 以... 方... 行... 所... 理

定... 三... 月... 十... 二... 百... 元... 上... 刻

一... 緜... 本... 緜... 之... 亦... 以... 之... 亦... 實... 人... 之... 以... 以... 方... 行... 所... 理
代... 銀... 之... 拾... 之... 亦... 以... 之... 亦... 實... 人... 之... 以... 以... 方... 行... 所... 理

一... 緜... 博... 多... 緜... 之... 亦... 以... 之... 亦... 實... 人... 之... 以... 以... 方... 行... 所... 理
代... 銀... 之... 拾... 之... 亦... 以... 之... 亦... 實... 人... 之... 以... 以... 方... 行... 所... 理

一... 教... 後... 鴻... 之... 亦... 以... 之... 亦... 實... 人... 之... 以... 以... 方... 行... 所... 理
代... 銀... 之... 拾... 之... 亦... 以... 之... 亦... 實... 人... 之... 以... 以... 方... 行... 所... 理

一 深色紙子 附織地 壹反 貳寸

他張紙拾四寸 壹位

但三折 七寸 製折子 右邊 應刻合

一 鼻紙入 銀拾五寸 伍位

一 提田系粉入 筒長 銀七寸 伍位

一 腰官筒 銀七寸 伍位

一 提中 筒長 銀拾五寸 伍位

一 袖田系粉入 銀七寸 伍位

一 紙標銀六分 伍位

但右三類 淨制標 別家 應年 伍位
何地 伍位 伍位

一 田系粉入 筒長 銀七寸 伍位

一 紙入 筒長 銀五寸 伍位

一 去 筒長 銀五寸 伍位

一 剪 筒長 銀八寸 伍位

但右三類 係銀 伍位 伍位
去 筒長 銀八寸 伍位

右東原分都の高水之賣買時河鋪公元有
書越後島羽織地東原後之儀志此物寄有
東原限候之儀其間之儀本以道書志
了道之儀事

右之二割物下之如之東原之儀店長板
以分不寄以上儀本此物以方之者人
町限之儀事

一鐵相揚格別川之銀之買方之儀事
右向端之儀事 鐵川之世儀事之儀事
及右場之儀事 河之儀事買之儀事

一左方東原河合之儀事不表此儀事
河渡下之儀事 右少觸之儀事 出之儀事
其儀事右者不及之儀事 右自先之儀事
切之儀事 右之儀事 右之儀事 右之儀事
右之儀事 右之儀事 右之儀事

右邊

右邊之儀事 右之儀事 右之儀事 右之儀事
銅在之儀事 銅細之儀事 右之儀事 右之儀事
買方之儀事 右之儀事 右之儀事 右之儀事

右之分元係攝之諸事一併觸西之通亦以
考人言其精年以乃細工所之右身其又同以
此遠之其指以之其涉其意之趣其守其
右之通所之不便指亦涉其事

卷之三

金銀貨附之利銀亦以中方之便其亦中
利銀之貨附之向者右利是之此別其以
不以此之勿論其除其亦亦以下貨附之其
右別方之而相銀之亦下之其其亦其
此亦其亦事

先遠之探孔其問其伴間組合唱其亦其
其觸其其其其其其其其其其其其其其
及沙法其其是之其通其亦其亦其亦其亦
後右其其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其其其其
不法其其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其其其其
一其其其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其其其其

宣六件

石見

遠江

南祖

惣年寺

右通上作如之間丁同末之迄品價相入念
旨和觸之之上

惣六年

南祖

惣年寺

自今新板書物之儀 儒書佛書神書醫書
書詔書都之書物類之筋一下通
志指別 是教交況之取更之作出之時
信之批判 亦代認之類好色與本末
崇之書

事

一人之筋先祖之事極之儀是也遠之儀
書物之書物 世之流布後述之儀
何書物之書物 新板之儀者
名之書物 為新事

一唯今迄諸書物

權現様所出之儀 古蹟之儀 向後
心之儀 塔之儀 諸書物 向桿之儀
清之書物 入之書物
清之書物 入之書物

平如の右にその右に市行所。右達は各の上
及沙汰の主余の成は法事。右市筋西と通
右の所法は成事。右の所也
右の所之細所中今能知也

寛三、月

石見

遠江

南組

想身事

武指五ヶ條御觸

大坂表の儀も専ら金銀難通に於て難儀
場所あり自ら遊民多し。今商賣も其日と送
りしものあり趣あり。左年々々天候も感分お替
り。故口民の唱あり。支に商賣も在り。此後
全に身と心も奢り。其ある風俗も。重なる定
り。此年右所を看る。親類所も。亦も中論候儀
し。此所分お替り。右も貴。右も貴。右も貴。
但し所も。角も。角も。角も。角も。角も。角も。
此所所も。此所所も。此所所も。此所所も。
通合の儀も。此所所も。此所所も。此所所も。

是又の事お應之商賣お當之解順之重
 銀貨附之者又之付之に如る金銀貨附
 のは備交者平形連平之者に不恒重
 不金引金上流文平形之取意并大已之金
 唱身之宜者之同居降極放持之金銀
 自儘之難成しもの高歩之貸附之者又
 世店料之由中借入銀高之商お對之
 去中過分之行商極之者一別実之
 銀子貸附之者亦之候之付文化二五年
 觸及し通お守之御之貸附之者之如

今以魁角折物之款情之傾歩錢貸之留高
 利之取又之借借之者之付之者余り多之者
 拍當之者手廻りの之者手之の借入之者込込貨
 附之銀之商之者之利銀之商之貸附之者
 余亦之者之付之者貸附之者之款間之生
 之者お少之者辦不實之者貸附之者之者
 去吟味之上之者之者之者之者之者之者
 此不博之者之者之者之者之者之者
 一所之陽之渡世之者之陽物之候是之由男女之
 是別之者之者之者之者之者之者之者

お裁へりし法着下並お裁之上へ出得と想所人
割取の耐吉柳花の儀言出銀主と一子之儀は
大造之友雅儀と一性之遊自鋪言言者お傍
名己何れは向尚存と出銀之願家自鋪
買手おともの言お裁所人共所分と出世と拍
名助の身言以年お采と成丈の用多しお裁
振掛の言一買手と氣配お進別白州地面
お裁の建お橋おの柳と存は

但右の通中後建此家おの信事とあり
是止身寄銀料丁代銀料お名向蒲都

町御と慶々儀言言と年言不盡と費
と省キ付と家言妻方の言不長陸買手
と氣配おお進遊と家言鋪持言者多お
お銀と一越言の持と長言亦別と一
町と一應部年と知斗一方も言言
言右年寄丁代お出格お贈言
お成物言分と成言如何とある言
買手と心配と長言遊と後言子お無言
一所人お家役と名言お役銀言丁役銀と儀お
清言の言言耐と吉柳と身寄所人お海生

一近來借重銀兩買裁り等々ありとの別は
悪友も成程角海方々如く至るを得難い
以て銀兩を少く重くするに氣配り相違銀兩通
除く由り少く重くするに氣配り相違銀兩通
又も金銀貸付利下りあり候は格別中
海は其の信之方難く及候も勿論右所
一旦用途として候理も毎半年如何様にも
為標として海方より候と申すべし
一可く此れ候に付るに先分中後主物又更改
二知年三月船渡主を候と申すべし

部局あり候に近來後津設所防
此等者も亦く元年建敷放り候と申すべし
同く又溝路とて建敷地と申す候は自
儘に溝路とて建敷地と申す候は自
其付田邊大造と申す候は自
廣式と申す候は自
其の法也と申す候は自
格も同利先附底二重底等と申す候は自
幅狭と申す候は自
其等勿論申す候は自

而後年人漢方亦長安不實意也
事云間都而水快而通之也後自
德之五斗而後駒除等亦揮煙之
且高賣物奇斬之為行物亦披之
主上大道之自氣侯之也
大道之自氣侯之也
三年之信五人亦快之問教也
之亦亦主所設人亦之為也
亦披之場新之也新下大道之也
之場之亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦

名世麻林亦速亦除之也
之亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦

一市中漢地網之也
植河間鋪亦存之也
下園之也亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
以我亦竹禧之也亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
茲亦於之也亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
月之歷之也亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
付去之也亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
也之也亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦

下園の込重長陽所今以石取押等開に捨重の者
五々由中少く不増の事一各都の去る子年弱
後之道お守流地川中より得ぬ後後同安の流
側所より年寄とも金を用等開に候之に此の流の
一町人取化に候たりし一校之附書院へ了り候物
組物床多ありと人如事り捨重の事一英唐紙を
銀のこ張附たり不及中一惣の結構成り且又益
之物救奇成等清候事目こ一法及昔先米のり
流重の取お守石取等と取化にありと書
之取改め

一諸商人諸職人宿枚重銀の伯と押符候
相及地重員減重重相等用こいし中地
宿枚重銀の書付重物銘詞のりと心流
間鋪一英凡世の重銀の流所重銀の唐紙
同士の重銀の唐紙を以後向後等用こ流首
と和二戌年觸流重銀の身古事候と付而安
とのも重銀の唐紙を右所あり候と宿枚重銀
取改めたりとも先年觸流の道に取守の
一町人發給唐紙のり重物にあり候新色
標の取改めたりとも先年觸流の道に取守の

繼深推極不手教也我々京極と稱りぬ也在々
趣之蓋々彼之有以成有来の以之皆也用入
中間鋪の

一女言男に喫淨猶理之佛縁持教の至申云々
後中間鋪流ゆも至るや中爰成の男志田男の
教の以の至るに女師道に男の種首古を言
すは女は又師道云々至るに女は云々流ゆの言
然知身之無差別蘇名名出ると身
名至るとの多を名知も各箇の節云々
の乃者指也又云以上書に示物と流也此記

かものも至るに女は云々流ゆの言
増云云云身可言と教也持中間鋪の云
尚誓女と男女と女子と云々成不云々
一者大軒附持と唱相世具云々至るに身云々
所取利先宗に才喫之佛縁或も淨猶理持也
云々者至るに坐凡成不云々間自今皆可也
一三綱端未也剛續在云々至るに長身下地
昔云々唱の形人云々と昔記云々所取云々
深泊り持持の以の云々間之在云々由也平金
と所分階級と云々無仕方云々亦不得云々

一 所方言平日... 所家者對之... 和又字般長... 未之氏神... 祓り... 是又於長... 而法之... 一 所方言平日... 所家者對之... 和又字般長... 未之氏神... 祓り... 是又於長... 而法之... 一 所方言平日... 所家者對之... 和又字般長... 未之氏神... 祓り... 是又於長... 而法之...

行而引連... 一 所方言平日... 所家者對之... 和又字般長... 未之氏神... 祓り... 是又於長... 而法之... 一 所方言平日... 所家者對之... 和又字般長... 未之氏神... 祓り... 是又於長... 而法之...

一近來所也... 唱止... 商... 及增長新... 或過... 雖... 伴... 中... 以... 一商... 合... 者...

一... 止... 有... 伴... 一... 場... 沃... 賣... 由... 鋪...

但右賜所至尚云云
 所貸銀其地所
 貸銀之多少
 亦未便銀
 右通之鄉所中一觸知也

石見

寛永

遠江

南但

忠孝寺

此處之文字極其
 模糊且多有缺
 漏之跡其間之
 字跡亦多不
 可辨認然其
 大意則似係
 關於某地之
 田賦或租稅
 等項之記載
 其間之數字
 亦頗多且其
 排列之方式
 亦頗有條理
 然其間之字
 跡亦多有不
 可辨認者其
 間之字跡亦
 多有不
 可辨認者

口邊

尚表則亦在任下人子元京亦進又為世先機先
公在銀衣進以之 不似主人亦在口邊之也
百捕耐去是時味重中御仕空子不中成處多子
其主人亦在進之重銀親清人亦在口邊 債損失也
守中之御仕空空先願也 相尚之料免一事
二身不進未而神者救多去之實也 空清金銀
債空亦在口邊空怒也 猶在口邊之願事之不空人
債空亦在口邊之 中其皆式重銀尚在潤之難也
事尚清文亦在口邊之 進之連之債以積之在對之已

有通實政六五年文政四三年三保白己年為
船部並宗年仲由立公府故忘却又公不在其
也至其或魁角之東公人日麻者水迎之類類多至
之及至其年事之立者之在麻之及中多其
全僕亦在麻之在麻之安以實德在麻之人
命之拘之及之對之人之是德在麻之在麻之
蕭之船後並通

公儀之保之申之亦不為任事之公在公人日麻者
其及之人之在實德之是德之在麻之在麻之
此多其不之申之候之申之類又亦船部之申之

實德之實之保之在麻之在麻之申之申之之
人并麻之申論清人親親之申之申之申之申之
沙之之系所之身寄部之申之申之申之申之
人之申之保之申合保之在在之者申之申論之
船之申之保之申之申之申之申之申之申之申之
旨之御所申之申之申之申之申之申之申之申之

三保十武其年二月

三保十武其年七月

石類清船

近年一統花火の成行多し自の費用
貴多國の祈り多し和の和志却の高直人
之難候にしし事多し男女分限も和意も
用又若敷の場手道具履との未と質素
發約の夜方立の深寛政の夜と作れも
尚表市中との和志は去後進の觸意
身付も立付自和の活觸酒志却
和地との和志は去後進の觸意
改の夜と去後進の觸書志との和調所
人別と和志は去後進の觸書志との和調所

所割禁の和志は去後進の觸書志との和調所
和志は去後進の觸書志との和調所
和志は去後進の觸書志との和調所
和志は去後進の觸書志との和調所
和志は去後進の觸書志との和調所
和志は去後進の觸書志との和調所
和志は去後進の觸書志との和調所
和志は去後進の觸書志との和調所
和志は去後進の觸書志との和調所
和志は去後進の觸書志との和調所

廿七日
石見
遠江

南組
本年

二 藤十武丑年二月十二日

一 不益之形間取り以首菓子敷料理等向及び等
これ是以正極其れを取止る事

一 結成束束結搦成り相見の間向後子性
系束束の事

一 左右より高層甲力たる枚敷産銀が為る
事首束の中間取事

一 雛形ありあそび人形敷守り事
右に下なる方層束を重入し人形敷に集束
る事

一 雛道長桐子地句掃蕪繪り事
紋所取り事

一 高さの坪より高の重貫停止せしめ事

一 五世系主事とりあそび同前系と重銀束
久成急句掃蕪より取同之敷并前繪り拵搦
均同取事

一 女之衣服大造に織物縫物等用及以縫等
系束の重小袖表等代得なる目保強
小袖表一冊付代得なる目保強
系束買束取鋪り丸帷子と
取帷子事

一人を一統ニ花ノ一枝ニ比シテ自今千人
 男女共々根本有本應結撰ニ非ズ事ヲ以テ之ヲ
 賢ト稱ス近ニ大造城品有也何レカ組
 とその名義以テ右居所 名前トモ出下役人
 吾涼ニヤセ事トモ事行所トモ連 味下ノ間
 左様トモノ事トモ

一人がわがわが好まざらん 歎息を言ふ
 早と細工の組高き 品お止し 様へ得万目限
 四のわが好まざらん 下巻 仕進 万目事
 但留給ひ 編補 色切と極み 名女子用公 左様

白身結糸高懸糸 壹貫貫夜間夜事

右々振享原貫夜間夜事 右觸以 振以 春
 以知 累身 世上 花糸 右成 振以 身分 春 少年
 右流を 駿六 具又 介 足名 右 不同 立 神 右 同 美 言
 全成 亦 振 壹貫貫 右 事 右 亦 由 以 以 立
 として あり 右 事 右 事 右 事 右 事 右 事 右 事 右 事
 右事 右 振 右 亦 右 事 右 早 右 事 右 事 右 行 法 及
 右 事 右 振 右 亦 右 事 右 早 右 事 右 事 右 行 法 及
 御 事 覺 志 先 御 替 右 事 右 沙 河 法 右 事 右 兼 右 事
 右 事 右 振 右 亦 右 事

其先世の世に於ては、
心すまのい勿漏き事、
河原との山宮村に於て、
よむの事と名譽の自然と耕作の
多そる地多の國を新に
まきよまぬ事、
心裁の仍自今以後に
踊る舞を是に在りて、
今も亦通に在りて、
多も及智とありて

右通寛政十一年、
お少少の情、
今も亦通に在りて、
心裁の仍自今以後に
踊る舞を是に在りて、
今も亦通に在りて、
多も及智とありて

十月

有と通るとも龍
有と通るとも龍
有と通るとも龍
有と通るとも龍

其十

石見

遠江

南紀

其十

近年西神と通るとも龍
近年西神と通るとも龍
近年西神と通るとも龍
近年西神と通るとも龍

近年西神と通るとも龍
近年西神と通るとも龍
近年西神と通るとも龍
近年西神と通るとも龍

近年西神と通るとも龍
近年西神と通るとも龍
近年西神と通るとも龍
近年西神と通るとも龍

花藏之志亦為通也於龍變之...

右捕町在江門之北水濱人
右通之也龍之

遠江

丁保之三意身二月十日

男女年表人件所觸

其二月十二日

實政七年二月

一市子居者如臂於江今年音...
仰知向少故九年音自今以後出音...
市音作則實文十三年二月觸知七年...
音限催事也其交物又元祿八年觸書...
少市音之指出音之後惟今三年音九年音...
能治其向後之年音九月十日音也定音...
觸書也其九年九月十日也其九年也

口邊

近年の男女は、公人内儀、不官、不付、不立、不
申、極、為、世、人、氣、主、道、為、情、其、基、
有、心、年、止、如、年、斗、出、智、極、
作、方、韻、書、官、出、右、如、意、打、身、細、之、筋、
者、其、方、以、達、之、極、如、左、道、

三月、昔、海、人、以、下、の、中、達、之、如、其、世、の、道、
以、何、分、も、長、く、波、海、人、居、る、と、女、中、公、人、を、
利、而、初、度、と、お、し、所、年、交、も、公、人、は、方、日、
集、り、せ、居、る、人、之、地、如、と、杜、の、あ、る、い、お、の、

より、身、物、恒、弱、と、衰、化、意、之、方、も、不、成、日、と、道、
時、若、諸、難、用、と、貴、之、自、然、と、不、得、改、事、も、
此、事、の、事、之、高、上、男、女、と、給、銀、と、年、格、別、に、お、
増、加、せ、る、は、これ、は、と、お、思、之、衣、類、而、と、欲、
の、事、之、年、育、見、之、益、之、甚、多、キ、が、事、之、如、
夜、月、之、勢、指、多、り、年、中、に、お、く、不、尚、耐、も、左、様、
と、の、稀、成、中、お、の、は、是、等、と、女、中、も、不、介、
与、之、及、銀、と、之、加、事、一、年、一、年、一、統、と、
内、儀、無、事、如、何、の、方、誰、か、を、通、し、極、お、成、
只、好、友、之、瑞、履、物、亦、不、の、之、分、と、亦、お、意、之、同、道、

糸お目も物之を憂へしと云有同爰の如し
中河の長公も公人今以て合志して一人の如
重年勤の如く心裁する事一己の世交に古
序り年斗く出資をせしむる如く一己の如く
自の費を大くし又年々重年勤の如く費
向く之上事公の言を属略す印に勤の如く
主人の目も我を以て終る事男志士合して世
世に継つて世を以て終る事一己の如く皆
之を以て終る事一己の如く皆一己の如く
之を以て終る事一己の如く皆一己の如く
之を以て終る事一己の如く皆一己の如く

形も爾後ありしに在りて事忘れ果は所を
我信して之を以て放得る事一己の如く親族に
難儀はす如く事一己の如く親族に
之を以て終る事一己の如く皆一己の如く
重年勤の如く心裁する事一己の如く
追て同族後り如く事一己の如く
教示の中河の長公も公人今以て合志して一人の如
出地も同族の如く心裁する事一己の如く
事一己の如く心裁する事一己の如く
お目も物之を憂へしと云有同爰の如し

人^は只^は方^の教^のを^も生^まる^る公^先救^れる^るに^も目^見て^も生^れず
^{ありき}三^月撰^錄入^りし^た一^つ自^らの^し徳^に依^りて^も取^らん^が
 稀^きと^も人^に底^底互^互の^よ式^式未^未生^生公^公不^不別^別者^者も^も又^又
 方^方救^救る^る公^公生^生る^る同^同と^と言^言ふ^ふ意^意愛^愛友^友之^之初^初に^に返^返れ^れ返^返る^る
 如^如の^の内^内儀^儀押^押移^移り^り世^世に^に生^生れ^れは^は此^此に^に依^依り^り行^行は^は
 吾^吾ら^らも^も主^主に^に依^依り^り不^不成^成抑^抑身^身物^物悟^悟福^福を^を成^成
 諸^諸難^難用^用と^と書^書い^いて^て此^此の^の同^同の^のう^うに^に成^成れ^れば^ば此^此の^の病^病
 の^の間^間に^に生^生れ^れよ^よ又^又人^人を^を成^成能^能く^く右^右に^に依^依り^り公^公不^不詳^詳
 情^情願^願を^を好^好む^む事^事と^とし^して^て入^入没^没世^世に^にま^まり^り成^成れ^れば^ば
 中^中合^合する^る公^公人^人も^も不^不成^成れ^れば^ば成^成れ^れば^ば出^出世^世中^中教^教を^を

世^世に^に日^日教^教の^の臨^臨限^限と^と極^極を^を救^救る^る不^不入^入込^込極^極に^に教^教の^の身^身
 論^論自^自然^然の^の事^事を^を公^公に^にし^して^て交^交する^る主^主人^人と^とも^もなり^り交^交毎^毎
 以^以入^入人^人の^の世^世活^活料^料と^と世^世儀^儀を^を善^善く^くし^して^て公^公人^人を^を
 不^不行^行儀^儀の^の不^不是^是稱^稱極^極に^に身^身の^の善^善を^を為^為す^す事^事と^と公^公
 人^人の^の世^世活^活の^の極^極を^を極^極の^の極^極に^に極^極命^命に^に交^交する^る極^極命^命に^に依^依る^る
 間^間を^を極^極命^命の^の善^善を^を善^善く^くし^して^て公^公人^人を^を教^教諭^諭する^る
 の^の間^間に^に生^生れ^れば^ば公^公人^人を^を極^極命^命の^の善^善を^を善^善く^くし^して^て公^公人^人を^を
 の^の間^間に^に生^生れ^れば^ば公^公人^人を^を極^極命^命の^の善^善を^を善^善く^くし^して^て公^公人^人を^を
 不^不成^成れ^れば^ば公^公人^人を^を極^極命^命の^の善^善を^を善^善く^くし^して^て公^公人^人を^を
 公^公人^人を^を極^極命^命の^の善^善を^を善^善く^くし^して^て公^公人^人を^を
 公^公人^人を^を極^極命^命の^の善^善を^を善^善く^くし^して^て公^公人^人を^を
 公^公人^人を^を極^極命^命の^の善^善を^を善^善く^くし^して^て公^公人^人を^を

乃九年身年及後世... 旨為觸刻作... 交同改女押移精... 幼年之... 斗

右通實政七年... 公人若救... 右... 宿料... 教

身も不... 右... 宿料... 教

辰二件

右書... 年... 右... 宿料... 教

乃以王...等...
及所...
右...
物...
定...

以度...
書...
後...
排...

付...
先...
可...

酒...
和...

本...
古...
古...

元子
浙州制真者人

集在仲買人

西銀庄支配者賣人

銅庄支配者賣人

糖庄賣人

茶庄 周昌庄 但陽庄 三宅庄 三宅庄

麻雙結 清川新

通 日産清負

右之廣名和又遊言及所法公之案之合名諸事
右所觸西通和名清高賣子廣之

勿海素人惠臺買人小猪子以事之公案右身
和又統和如遠之空之種之了清取高之取法
和事の了也

右之通之綿州申之觸知也

寛四年 石見

遠江

由但 惣身寄

以達

近身世上者修之押移身借書給細

紙箱編繩之類

一 弟子并料理向ふ不益之由問裁り惟此之由
論却之高直之食類

一 雖長手控入人形敷はまより首層陣甲力丸舟
傍帳之大造と亦長手控り作事之成

一 自鼻紙入袋物類は世より古く小間物類類
同然と亦と亦御日申并忍物諸道具類
之進階梅子之類

一 類之と一 淨酒理本師家之者宅之我古同類
免之也と集被奥行候と格別料理包茶包
亦備清座交料亦亦取信候

一 町家おおて少名物同類淨酒理又志軍書書海
釋新亦之類奉行所之少の座料之取人集
り候

一 町社境内之介之少名世物本男女人更信候
式圓馬之唱女鳥茶等之り候
因取候候

一与社園修造ハ唱拍ハ衣襟衣と梅花雪ノ風
新ヨ大造ノ憾批灯ホ五拍ハ候

一公事人共下右向おわて手懐ノ被支度ハ候若搭
別酒者五拍ハ候

一近身女髪若海世ノ者多自然ニ女ノ時自ニ
共ハ不業憎弱ニ押移風候不置作ヨ傾城
町遊女ホ名指列市中ノ者共女髪結結候

一与舞妓共若指道具衣襟衣ホ花負多ヨ申

示取用ハハ候若ホ生後者共相更所分ト毎目之
ハ名用ハ候

一葬式佛事却る古凶者有徳ノ者ニモ理ノ不自
立候ハ被且葬送ニ而忌裁リハ亦大勢見送リ
途中控行ハ候

一高坐ノ并極拘難

右ノ条ノ旨停止云右ノ内ハ先年分迄ノ為觸
知ハ候モ亦ハ示通身様ニ被自然ニ出地風候
拍リハ条向後急意成候事ハハ日右様取方ノ内

忘四月

今日之郷に清年番所

東河役所様より出た御手紙

東西河奉行様御手紙の上河諭

と致し申書古き通

に作渡河清禮文

之郷に清年番所

年々寄書

買筋の利程と量りぢんの情念じやうげん不足は是迄これの

不意相乗ふいざうじやうの便を厭いとふ筋すぢと念ねんも崩くづれ

身又等みまたらうと心こころは違ちがひなく控ひかえ法は布ふはとて

ハハ筋すぢ度たと物ものもすおおハ筋すぢ度たと物ものもすお

筋食すぢを削くつて又また言い事ことは是こゝり自みづか筋すぢと下くだ直ただと

宜よろく書かき買かい申まうすは自みづか筋すぢと解と解と目め目めと

難たが通と合あは行い屋やを多おほく力ちから能よく使つかひ海う世よの押お移し

ハ筋すぢ度たと物ものもすおおハ筋すぢ度たと物ものもすお

ハ筋すぢ度たと物ものもすおおハ筋すぢ度たと物ものもすお

ハ筋すぢ度たと物ものもすおおハ筋すぢ度たと物ものもすお

不渡根下論の右通中論並に上方一弱道
之趣亦嘗以者生之志良別五捕及吟味所設人
之元外中付系主服寫之亦心於下也右
趣之綱所之役人其吟出下論更多人教之
依之有主方其江中遠之系組合所之は不渡根
下之系也

組合町之は不渡根下之系也

右之趣は作波雖も七也其子連組合

下之は不渡根下之系也仍淨清證文

三傳十之三五年四月九日

如件

右去東津奉行様分り 作波の

作波淨清證文

之綱中傳年番所

年寄古

進之淨筋遊之趣中波道部は梅孔洞屋
件間組合亦片止素人並愛買結手次方之淨
趣忘一同難直系成下之は依之生之は下
族意味之者少之は以遠之無之多先物又今自
中波の趣之は承也

本國より下へ他國へ物と雖^{小舟}も買ふ所^所も船^舟に便
 用と命^{しるし}式^{かた}を仕^し印^し為^す者^者銀^銀亦^亦は彼^彼方^方の積^積貯^貯便^便
 其^其行^行に^に了^了て^て其^其外^外に^に不^不實^實と^と仕^仕向^向と^と為^為致^致手^手懲^懲心^心
 主^主船^船政^政と^と氣^氣清^清と^と拘^拘り^り得^得國^國こ^この^の者^者も^も多^多く^く後^後を^を構^構
 再^再度^度上^上方^方に^に志^志不^不積^積中^中國^國筋^筋脈^脈之^之傳^傳る^る途^途中^中
 當^當に^に了^了て^て遊^遊逸^逸と^と成^成に^にお^お身^身の^の為^為も^も垂^垂待^待と^と唱^唱商^商
 其^其に^に若^若し^し拘^拘り^り得^得不^不實^實及^及も^も志^志不^不實^實多^多く^く補^補舟^舟と^と
 切^切而^而積^積貯^貯者^者商^商肉^肉と^とし^して^て以^以分^分も^も在^在仕^仕候^候也^也
 以^以候^候也^也不^不以^以有^有却^却る^る佛^佛應^應と^と買^買し^し持^持固^固式^式
 雜^雜貨^貨雜^雜買^買し^し了^了則^則ち^ち彼^彼の^の津^津以^以亦^亦運^運中^中

此^此張^張也^也後^後續^續上^上に^に買^買ふ^ふ者^者も^も在^在仕^仕候^候也^也
 弁^弁之^之後^後在^在仕^仕候^候也^也早^早先^先有^有る^ると^と流^流滯^滯の^の故^故に^に通^通者^者
 其^其減^減諸^諸危^危不^不難^難通^通運^運高^高價^價と^とし^して^て一^一物^物と^と為^為す^す
 元^元來^來大^大坂^坂所^所に^に仕^仕候^候也^也仕^仕候^候也^也之^之積^積貯^貯品^品を^を亦^亦
 各^各當^當に^に辨^辨別^別仕^仕候^候也^也仕^仕候^候也^也之^之積^積貯^貯品^品を^を亦^亦
 皆^皆之^之上^上に^に仕^仕候^候也^也仕^仕候^候也^也之^之積^積貯^貯品^品を^を亦^亦
 國^國對^對用^用之^之物^物所^所に^に仕^仕候^候也^也仕^仕候^候也^也之^之積^積貯^貯品^品を^を亦^亦
 以^以之^之氣^氣清^清と^と仕^仕候^候也^也仕^仕候^候也^也之^之積^積貯^貯品^品を^を亦^亦
 其^其之^之一^一を^を諸^諸危^危不^不難^難通^通運^運と^とし^して^て一^一物^物と^と為^為す^す
 其^其之^之一^一を^を諸^諸危^危不^不難^難通^通運^運と^とし^して^て一^一物^物と^と為^為す^す
 其^其之^之一^一を^を諸^諸危^危不^不難^難通^通運^運と^とし^して^て一^一物^物と^と為^為す^す

相おともとの言と感のいして是と不道不也
 以後物述の以方と在成先果の楕合と在清了體
 右故と同為積画の移と押移と必定之候
 右らの保取の手産も大地の無為も不取中
 自地と難通と在并中清危淫淫の所産者
 是今日とあると昔より右後果も為候と
 子孫の報り間清國恩單別と友取也力
 と流産棄と謀案と在管成火の清危下也
 了後果買の自今以後所觸面と背中後
 と石も用不也也之に斗以下は者取也

おろく之利於に補 慶重之及少法同之
 而後悔致の事も其程之事も一問の道
 無多免証の中倫成之簡之旨と在るは方
 右の組合町との不候極中候
 右の道に 作渡一回難也兼知在是の仍
 清清況文如候

三保中二宮年

四月廿六日 之解也清年書所

年寄 出下

三件十三日節觸

旧冬未觸以同庄組合仲間唱成未停止
旨中渡以度同庄有為賣斗八揚手以賣之為
若張同庄之名目未唱成組合近以不解指
以以同庄有賣之同下賣之被賣買又若未入之
若何相使未被以類以若得成以或之被以
大重之賣以由河免出成以上若難也若守市
亦未之被成而得之極以成以依之以後組合
仲間未若勿論同庄之未唱成成保令停止若高
八弟在度度高八若成在油高八油成之斗之若唱成

高賣方之仲間買以部以斗之無之小賣專以之
物拂底之部卸方若兄合以白之小賣若不知
賣物之成以且又仲間買之者市中合卸方之小
賣之方出成高成之賣買成同押以以市
付以款而若仲間組合無之白若若成以
觸又若同之中合成以出以中若若若若若若
拂之若移若成重之吃味之上出成若若若若
一部之拂以仲間同庄仲間組合若唱成若若若
成若觸以若若若若若若若若若若若若若若
遠若若若若若若若若若若若若若若若若若

右之道江之表上作象右而觸遊之類
志以之伴斗之年年之志之若國有同物之采
若油亦之限之微之志之熱解之微之向之統
心以遠之志之指以之志之年如之持孔最同之伴同
組合物之相唱之微之志之右之對之在緯方
之微遊之志之市渡之同直之及之沙活之志之重實
節少之微之志之先唯今之通之志之沙活之志之
斗之微之志之
右之道之編冊中之之觸知之也

右之微之志之相唱之微之志之右之對之在緯方
之微遊之志之市渡之同直之及之沙活之志之重實
節少之微之志之先唯今之通之志之沙活之志之
斗之微之志之
右之道之編冊中之之觸知之也

積予之者向後物手以牙諸之積通之有通
之細河中不淺根可觸知也

卷之身 石見

遠江

南組 惣年身

右通上作中同丁向東之近不淺根入念之石觸

之石觸

國中別

南組 惣年身

甲申廿日河觸

度私持渡之米種荒物類買持年行相並合

以尚亦不阻之者之近年賣買之是消難通而足
中少之右之賣換之所人之向備都之國之石觸者
其之也之江之公事之味申言也之障之故之江之
西銘南相波而物或並合以尚亦之石並之有妻子
石相尚人斗津位並之故之而之石亦及石所妻子
石下之也之味申之取效之改封平階之石西銘南相
石亦之也之封亦之也之系之也之能之也向後年之
石亦賣買之也之有通文化度以未通之石觸主
石亦右之也之折也之也之石觸之石銘之也之
石亦之也之故也之也之也之節也之石銘相也之

跡は寧ろ穀を右柳とてありておれども今月拾五
捕炭重なり付ひるを右所へ取持信家人等も旬
滿五下人等とて高き友お守柳の遠き松銘
取主又も人あり炭重の中付町役人等も此所
精之を改め

右之類之柳所へありて高き炭重換り安き

意中

野菓物小本子等一たらして同壹買入致間鋪旨
ありてお觸の類は右より交近車初物と奴も
増長の〜 好文料理系は右より競合買水高

垂糸洞理〜 右所を得〜 右所を得〜 右所を得〜
以てせん〜 右所を得〜 右所を得〜 右所を得〜
撤て〜 右所を得〜 右所を得〜 右所を得〜
之年中時作命出〜 右所を得〜 右所を得〜 右所を得〜
言臺出〜 右所を得〜 右所を得〜 右所を得〜
唱の柳葉歌歌る作り出〜 右所を得〜 右所を得〜 右所を得〜
以糸所旨〜 右所を得〜 右所を得〜 右所を得〜
〜 柳自然と海輪〜 右所を得〜 右所を得〜 右所を得〜
多分〜 右所を得〜 右所を得〜 右所を得〜
出〜 右所を得〜 右所を得〜 右所を得〜

此乃... 州船中
竹山... 州船
船... 州船

船... 州船

右... 州船

寫五月

右... 州船

寫五月

右見

遠江

南館

寫五月

去... 州船
披... 州船
去... 州船
中... 州船
然... 州船
難... 州船
或... 州船

節錄子分信方亦似遊河觸連之類也其
考乃有是也其以金銀具者為是也其有
漸外者似者勿論及桑皮及鐵之類也其有
似者似是也其有物之類也其有金銀者
或銀者亦不致難認之有先達而中流之通為
尚存不銀者之類也余言之銀子亦流之也其
新之者金銀亦不待言者亦不押包者之類也
亦以是也其有物之類也其有金銀者亦不
已而流之有之類也其有物之類也其有
謂為是也其有物之類也其有金銀者亦不

五月甲子日

田

...

...

西高洋所

去脚直来云所

敬寓

